



ドナー搜索のボランティア

Interviewee
Donor Children(Matt)

Q. サイトを設立するまでの経緯について教えてください。

アメリカ中西部で1986年に生まれた。両親は異性愛者でキリスト教の家庭で育った。精子提供のことを知らされておらず、育ての父親を長い間、実の父親だと信じていた。しかし、父親の家族から切り離されたような感じがしていて、アイデンティティの問題を抱えていた。何か不自然なものを感じていた。

思春期の12歳のころ、家族と一緒にジムを訪れ、その時、父親と身体面で似ていないことに気がついた。徐々に疑問を抱くようになり、自分を喪失するような感じに陥った。

その後、大学では航空宇宙工学を学び、エンジニアになった。その間もずっと自分のアイデンティティについて悩んでいた。

21歳で結婚し、25歳で最初の子供が誕生した。子供を持ったことがきっかけで、自分の出自についての疑問が再び大きくなっていった。自分の父親は、精巣癌を患ったために子供を持つためには何らかの援助が必要だということは聞いていた。両親はカンザス大学医療センター(UKMC)のサービスを使用した。しかし、これが精子提供のことだと

は知らなかった。

父親にアプローチし、2012年6月6日、父親とは遺伝的に繋がっていないことがわかった。ものすごくショックを受けたが、合点があった。ドナーは匿名で、自分と妹のケイティの両方に使われていた。

それから、遺伝的父親を見つける旅が始まった。母親から同意をもらって、UKMCの医療記録にアクセスすることができた。しかし、利用可能な情報は非常に薄っぺらいものだった。最終的にDNA検査サービスに頼った。Donor Sibling Registryに登録したが、これはお金がかかる上に全く効果がなかった。とてもフラストレーションが溜まった。

最終的にDNA検査で2013年に遺伝的父親見つけた。4番目に遠い、いとこを経由して。

Q. このウェブサイトの運営状況について教えてください。

2013年から活動している。このサイトは会費無料で運営している。当事者のソーシャルネットワークとして、グループを作成したり、写真や文書を共有したり、複数の人にメッセージを送れる。コミュニケーションを作ることが目的。このサイトには、KLMCクリニックで生まれた人たちのコミュニティもあって30人以上が集まって情報交換している。

色々なDNA検査サービスを利用してドナーを探すための手伝いもしている。彼らをサポートして繋がりを作る手助けをしたい



と思っている。

このウェブサイトはドナーから生まれた人たちの基礎資料を作るのに役立っていると思っている。この問題を研究する研究者やメディア関係者が参加して自由に情報を収集してもらえばいいと思っている。

だから、メンバーシップやサービス料はかからない。寄付で賄っている。また、誰かがサイト上のリンクを通じて DNA 検査を購入したときにわずかな手数料を受け取っているだけだ。サイトを運営し、他の人を助けることは、自分にとっても癒しの旅となっている。

そのサイトを作ったお陰で、様々なフォーラム(例えば、国連、マルタ議会、フロリダ州上院など)で講演するために招待されたりもした。

Q. DNA 検査を利用した場合、どのくらいの確率で見つけられますか?

何人が遺伝的家族を見つけたかのデータはないが、自分が個人的に支援した人は全員がドナーを見つけることに成功している。

可能性を高めるには、すべてのデータベースに登録することが重要だ。自分は7箇所に登録した。サイトへの登録料はどんどん安くなっている。しかし、データベースの有効性は地域によって異なる(例えば、データが最も多いのは米国)。また、サイトを効果的に使用するためのノウハウも重要だと思う。

Q. DNA 検査で見つけようとする場合、お互いに不快な思いをすることはないでしょうか?

そのようなことはよくある。このような話は、Facebook の当事者グループなどでしばしば共有されている。

自分の経験もかなりネガティブなものだった。最初に直面したのは、ドナーの過去だった。彼は刑務所に入っていたことがあり、医師免許を剥奪され、数百人の子供の父親になったなどと言われていた。

遺伝的父親との関係は、始めは緊張していたが、だんだんと打ち解けて親しくなり、直接会ったのは2回。自分はドナーのことを父親(father)だと思っている。

Q. 遺伝子検査のメリットとデメリットを教えてください。公的な管理機関が必要だと思いますか?

データベースは複数ではなく、1 つに絞ったほうが効率的だが、アメリカ人としては、自由な市場によってコントロールされたほうが良いと思う。自分の情報を共有することを恐れている人が多い。自分は政府がこれらのサービスをコントロールすることを望まない。商業的 DNA 検査は、有用な健康情報を人々に提供してくれる。過去には FDA がそうした情報をコントロールしようとしたこともあったので警戒している。

1 人の男性が提供できる回数に制限がない



ので、すべてのクリニックを包括する全国的なデータベースがあればとても有用だと思う。それは、ドナーの多様性を確保するのに役立つ。そうは言っても、自分はこの業界をサポートしたいわけではない。

Q. ドナーに興味を持つ人もいれば、一方で全く興味がない人もいますか？

知りたいという気持ちや、知りたくないといったことは、その人の世界観や、血縁と家族についての社会の見方、そして現実を直視する勇氣があるかなどに影響を受ける可能性が高いと思う。答えはひとつではない。

自分は遺伝的父親を見つけようと強い決意をもってしたが、妹は、遺伝的父親について知れば、自分の人生に(大きな)インパクトを与えるのではないかと恐れていた。

ドナーから生まれた人々は、自分より他人のニーズを優先する傾向があると思う。多くの場合、彼らは、自分の家族やドナーの家族を混乱させたくないと思う。だから家族には秘密でドナー(やドナーきょうだい)を探そうとする。

Q. 米国を含め、匿名ドナーを認めている国も多くあります。匿名性を禁止する法律を作るべきでしょうか？ それとも親が選べるようにするべきでしょうか？

DNA 検査があるので匿名性は現実的には

不可能だ。

匿名性は禁止すべきだと考えている。しかし、葛藤も感じる。というのは規制をすることは、その行為を認めるということに他ならないし、何がしか倫理的だと認めることになるから。

米国では第三者生殖に関して説明責任は果たされていない。お金の事ばかりで、社会や生まれてくる人のことは考えていない。

自分が誰かを知る権利が全ての人にある。第三者生殖を利用するという親の決定は、自己中心的なものだ。依頼親は、この技術が不妊の問題を解決するという‘嘘’を売られているのだが、(不妊であるという)現実は何も変わっていない。

自分がドナーによる出生者だと知ってから、育ての親との間には大きな対立があった。

Q. 米国では、ドナーの情報どのように保管されていますか？

自分が住んでいる米国ミズーリ州では、クリニックが閉鎖されたり、廃業したりすると、記録が失われたり、破壊されたりする。説明責任はほとんどない。

自分の経験は、非常にネガティブなものだ。アクセスできた記録はまばらで、ドナーに関する情報はほとんどなかった。

William J Cameron は UKMC の不妊治療医だったが、晩年、アルツハイマー病になった。そして、家に保管していたドナーの記録を全



部燃やしたと聞いた(※おそらく医師はドナーの少なくとも一部だったので-日比野註)。真実はわからない。

Q. ロビー活動はありますか? どのような?

The Centre of Reproductive Medicine が、誰がドナーになれるかに関する法律を作るためにロビー活動を行った。その法律があれば、不妊治療の医師がドナーになることを防ぐことができるだろう。

例えば、知り合いの Eve Wiley は、ドナーによる出生者の権利のために複数の州間で強力なロビー活動を行ってきた。彼女の母親の主治医の産婦人科医は、母親から同意を得ないで自分の精子を使って人工授精をした。

Q. ドナーのことを何と呼びますか? 育ての父のことは?

遺伝的なつながりは自分にとって一番重要。近々、ドナーのファミリーネームに正式に変更する予定だ。次のように呼んでいる。

- ・ドナー = 父 (father)
- ・育ての父 = 継父 (step-dad) (家では 'Dad' と呼ぶこともある)
- ・ドナーからのきょうだい = 兄弟 (brother) か姉妹 (sister)

Q. donor-conception は禁止すべきですか?

第三者生殖は現代の人身取引だと思う。多額のお金がかかり、お金で誰が生殖することができて、誰ができないかが決まる。

自分がネガティブな経験をしただけでなく、他の人が同じように苦しんでいるのを見てきた。第三者による生殖は有害だ。自分の遺伝的背景の半分しかわからない人をつくり出しているのだから。それは究極の虐待と言えるし、家族を蝕んでいる。

Q. 子どもが小さい頃から繰り返し説明するのが良いとされていますが、これが最善の方法ですか?

子供には十分な情報を提供すべきだと思う。秘密は信頼関係を損ない、関係は壊れる。親はアイデンティティに関する情報を子供に提供するためにできる限りのことをすべきだ。

Q. 知らない方がいいという人はいますか?

知らないことを好む人もいるかもしれないが、それはまれなケースだろう。多くは、ドナーから生まれたという事実で苦悩し、ドナーを見つけようとして、痛み、怒り、裏切られたという感情と闘っている。



Q. ドナー兄弟が沢山いることは、当事者にとって歓迎すべきことでしょうか？

全然思わない。無責任極まりない。

遺伝的父母が同一の妹の Katie のほかにもいるドナーきょうだいについて知りたいと思っている。ドナーきょうだいの一人、Blake とはとても親しくなったが、子供の頃から取り合っていたならもっとよかったのと思っている。

遺伝的に近いドナーきょうだいは、性的に惹かれやすいかもしれないという問題があり、近親婚のリスクが高くなるかもしれないと思っている。

2021年5月

Donor Children

